

総務部長	山本 将世 君	市民部長	五十嵐 久英 君
産業部長	見辺 太 君	総務課長	渡辺 成剛 君
企画定住課長	渡辺 孝志 君	財政課長	大沢 喜昭 君
能生事務所長	土田 昭一 君	青海事務所長	穂 苺 真 君
市民課長	小林 正広 君	環境生活課長	高野 一夫 君
福祉事務所長	川合 三喜八 君	健康増進課長	池田 隆 君
商工観光課長	大嶋 利幸 君	農林水産課長	猪又 悦朗 君
建設課長	五十嵐 博文 君	復興推進課長	斉藤 喜代志 君
会計課長	山口 和美 君	ガス水道局長	樋口 昭人 君
会計管理者兼務		教育長	井川 賢一 君
消防長	丸山 幸三 君	教育委員会こども課長	磯野 豊 君
教育次長	磯野 茂 君	教育委員会生涯学習課長	
教育委員会こども教育課長	泉 豊 君	中央公民館長兼務	小島 治夫 君
教育委員会文化振興課長		市民図書館長兼務	
市民会館長兼務	伊藤 章一郎 君	監査委員事務局長	渡辺 一彦 君

〈事務局出席職員〉

局	長	松木 靖 君	次	長	山川 直樹 君
係	長	上野 一樹 君			

〈午前10時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

おはようございます。
これより本日の会議を開きます。
欠席通告議員は、ありません。
定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（中村 実君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員には、7番、佐藤 孝議員、18番、松尾徹郎議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は13人ありますが、議事の都合により、本日5人、17日5人、18日3人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分であります。

所定の時間内に終わるよう、質問・答弁とも簡潔に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告書の範囲内にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

おはようございます。糸魚川21クラブの田原 実です。

久しぶりのトップバッターです。よろしくお願いいたします。

通告書に基づき、3項目について質問いたします。

質問1、次期ごみ処理施設の建設と運営について。

(1) 次期ごみ処理施設の諸課題について、特に他自治体等で建設する同時期、同規模、同性能の施設と建設費、運営費を比較した場合、糸魚川市のものはかなり高額です。その理由について伺います。

(2) 施設建設の市民周知、市民の見学活用、施設を使った環境フェアについて伺います。

(3) 海洋プラスチック処理等環境問題解決への貢献について伺います。

質問2、広域観光連携における大糸線の活用、その現状と課題について。

(1) 大糸線活性化協議会について、特に大糸線廃線へのJRの動きについて伺います。

(2) 公益法人深田地質研究所が提唱する「ジオ鉄」としての活用について伺います。

(3) 鉄道ジオラマ、キハ52車両展示スペースの拡張と観光活用、鉄道グッズ販売等について伺います。

(4) えちごトキめき鉄道との連携、民間の知恵をいただくことについて伺います。

質問3、糸魚川市の責任で進める復興再生事業、にぎわいのある暮らしやすいまちづくりについて。

(1) 駅北広場、防災公園、市民公園の建設の経緯と活用について伺います。

(2) リノベーションスクールによるにぎわいづくりについて伺います。

(3) 高校生や若者が日常的にやってくる「にぎわいの拠点整備」について伺います。

(4) 若いファミリーが好んで住んでくれる環境整備について伺います。

(5) 日本海に一番近い新幹線駅、糸魚川の海の幸、新鮮な食材を生かした復興再生について伺います。

(6) 大学生等まちづくりボランティアの受け入れと活用について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、環境省の入札の手引きに基づき算定した予定価格の89.3%で落札されており、適切な金額と考えております。

2点目の施設建設の市民周知につきましては、市のホームページで公開いたしております。市民の見学活用につきましては、ごみ処理施設の仕組みなどを学習していただき、ごみ減量推進などに活用していきたいと考えております。

また、来年度の環境フェアの会場として利用し、広く市民に見学してもらえるよう計画してまいります。

3点目につきましては、新施設の稼働により、リサイクルができないプラスチック類を焼却することが可能となり、貢献できるものと考えております。

2番目の1点目につきましては、JR西日本は活性化協議会の構成団体として沿線自治体と連携し、活用促進事業に積極的に取り組んでいただいております。

2点目につきましては、24年に協力してジオ鉄マップを作成いたしており、今後もジオ鉄を活用し、利用促進に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

3点目につきましては、首都圏からも鉄道ファンが訪れるなど好評であり、より魅力的な施設を目指す必要があると考えております。

4点目につきましては、北アルプス日本海広域観光連携会議において、利用機運醸成を目的としたスタンプラリーをえちごトキめき鉄道と連携して実施しております。また、関係者が一体となって活性化に取り組んでいく上で、大糸線を応援してくださる方との連携は、重要であると考えております。

3番目の1点目につきましては、敷地再編を行う中で、被災者等から市が引き受けた用地の一部を広場・公園として整備し、一時的な避難所や住民の憩いの場、人々の交流や新たな起業へのチャレンジの場として活用してまいります。

2点目のリノベーションスクールを通じて、当事者としてまちづくりにかかわる人材育成を目的といたしており、新たな空き家活用につながることを期待いたしております。

3点目につきましては、駅北地域のまちづくりについて、まちづくり会議で検討していく中で、にぎわいの拠点の役割や位置づけも検討してまいります。

4点目につきましては、働く場や子育て環境など、若い世代が暮らしやすくなるようなまちづくりをしていきたいと考えております。

5点目につきましては、引き続きにぎわいのあるまちづくりプロジェクトに基づき、恵まれた資源を生かし、まちづくりを進めてまいります。

6 点目につきましては、早稲田大学ボランティアセンターが30年度から復興支援、にぎわい創出を目的とした活動を行っていただいております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9 番（田原 実君）

では、ごみ処理施設について再質問します。

工事は順調に進んでいますか。ただ、建設状況の市民周知は不十分です。以前よりホームページでの紹介を見やすく工夫してほしいと言ってきましたが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

おはようございます。

お答えいたします。

工事の進捗状況ですが、ご存じのとおり最初、地下埋設物の撤去工事に1カ月を要しました。こちらのおくれが当初出ておりましたが、今、鋭意取り戻せるよう努力をさせていただいているところでございます。

ホームページでの更新につきましては、実際に工事が行われましてから1年少し、それと工事が目に見える形になってきてからは10カ月程度が経過していると思います。こちらの中で、8回のホームページの更新を行っておりまして、写真を多用した工事内容に変化があるのがわかるようなホームページの更新を目指していただいておりますが、議員おっしゃいますように見づらい部分もありましたので、いろいろと改良させていただいてますが、今の状態ということでご了承いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9 番（田原 実君）

今回、私が通告書でこのことを上げたので、9月10日からトップページから見られるようになったんじゃないですか。

それと写真はあるけども、解説が足りないですよ。どんな施設をつくってるのか、あるいはどんな目的なのかがわからない。それをやっていただかないと市民周知にならないと思うんですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

トップページの更新は、たしか8月19日の更新からだったと思いますが、やはり市のホームページのトップページ更新しましても、どんどん下がっていってしまうものですから、見づらい時期があるかと思います。

また、説明につきましては、これからもわかりやすいものに鋭意努力したいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、改めて焼却システム、性能、建物構造、面積の説明をお願いします。それから、コンサルタントと設計発注先、工事発注先、運営委託先と、それぞれの契約額及び発注方法を説明してください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

それでは、まず今回の施設の整備・性能ですが、従来、炭化炉という形式をとっておりましたが、今回からはストーカ炉という形式をとらせていただいております。

今回の整備につきましては、ごみ処理施設建設工事の契約額については58億3,200万円、落札者はエスエヌ環境テクノロジー等の共同企業体でございます。

大変申しわけありません、あと何でしたっけ。

○議長（中村 実君）

暫時休憩します。

〈午前10時12分 休憩〉

〈午前10時12分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「休憩お願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

暫時休憩します。

〈午前10時13分 休憩〉

〈午前10時15分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

資料の整理が荒くて申しわけございません。

性能につきましては、先ほど申し上げましたようにストーカ炉、24トンの2炉、合計48トンが処理できるものであります。建物構造については、SRCがメインの工事になります。面積については4,396平米となっております。コンサル会社につきましては、日本環境衛生センター、費用につきましては6,156万円となっております。運営団体につきましては、サンバイロ糸魚川株式会社、こちらのほうの契約金額につきましては79億7,000万円となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございます。発注方法も教えていただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えします。

設計・施工一括発注となっております。性能発注方式でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

DBOということで考えていいですね。

他自治体等で建設する施設と建設費、運営費を比較していただいたと思います。環境省の循環型社会形成推進交付金内示データベース、財団法人日本環境衛生センターのデータベースに詳細な資料があります。

さて、トン当たりの建設費が、糸魚川の施設よりも高額なものがありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

今おっしゃいますとおり1トン当たりの規模と比較するのが適切かと思っておりますが、各施設規模ですとか整備する内容が違うため、一律には言えないのですけども、平成30年度以降の落札

単価を見ますと、数年前に比べますとかなり高額なものになっておりますので、当市のほうの単価につきましても適正だったというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川の施設よりも高額なものはあったかと聞いてるんです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

失礼しました。施設につきましては、通常のストーカ炉になっておりまして、見学施設等も大規模なものではありませんので、極端に他の施設との違いというのはないかと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民部長、以前に市民厚生常任委員会においてストーカ炉部分の工事費が、他市の同等のものよりもかなり高額と指摘され、検証することになっていたと思いますが、結局うやむやなままですよ。ストーカ炉部分のトン当たりの工事費が、糸魚川の施設よりも高額なものというのはありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐市民部長。〔市民部長 五十嵐久英君登壇〕

○市民部長（五十嵐久英君）

以前、議会のほうへ、常任委員会のほうへお出しした資料の中では、糸魚川市の場合については、トン当たり1億1,250万ということでございます。ほかにも、にかほ市とか標茶町ですか、そういうところが糸魚川より超えているということになります。

先ほども環境生活課長が申し上げたように、それぞれ同じストーカ炉というものにおいても整備する処理能力の違いとか、それによってやはり、すみません、焼却施設については、ある程度、値段のばらつきはあるというふうな状況というふうに認識しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ちょっと違うんですね、質問がね。もうちょっと具体的に言ったほうがよかったですね。滋賀県の野洲の施設と比較したときにストーカ炉部分、そのところの工事費を比較したならば、随分違ったと、野洲が安かったじゃないかと。それどうしてということ、じゃあもうちょっと結果見まし

ようということでしたけど、その検証が済んでないんですよ。それでどうですかという話を聞いています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐市民部長。〔市民部長 五十嵐久英君登壇〕

○市民部長（五十嵐久英君）

今、議員おっしゃった野洲市については、確かに当市の施設よりも相当金額的には安かったという部分だというふうには思っております。

ただ、それぞれの時期の受注状況によって金額が動いているというのが現実だということで、同じストーカ炉という部分についても、その発注・受注時期によって値段が動いているという状況で、一概には単純には比較できないという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川の施設は、日本環境衛生センターのコンサルタントを受け、DBO方式が建設コストが抑制できて運営のトラブルもないということで、設計、工事、運営の業務委託を進めて、結果的には、1社入札を認めて高額な建設費と運営費で契約せざるを得なくなりました。その過程を私は見ましたが、もともと高額な予定価格を設定し、行政の責任者自身が1社入札を認めていく発言をして、これが糸魚川市の施設の建設費、運営費を高額にしたんじゃないかと、今にして思えば、そのような過程があったかに思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐市民部長。〔市民部長 五十嵐久英君登壇〕

○市民部長（五十嵐久英君）

今回のごみ処理施設の発注に当たりましては、先ほど市長答弁にもございましたように環境省の入札の手引きに基づいて予定価格を作成したというもので、市のほうで恣意的に予定価格を高く設定したというものではございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、質問を変えます。

市民が環境について学べる見学ができるように議会から要望しましたが、その後どうになりましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

見学ですとか、そういった学習施設の考え方について説明いたします。

今議会で予定されてます委員会のほうには、詳しい図面等をつけまして説明させていただきますが、学習施設について説明させていただく予定となっております。

また、対市民といたしましては、施設見学を考えておりまして、完成後、なるべく早い段階で清掃センターのある須沢地区、またその後は日を決めまして、自由に出入りできるような見学会等も考えさせていただいております。

あわせまして、先ほど市長が答弁いたしましたように環境フェアの開催も考えておりますので、そういったところで周知していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

担当課も武蔵野市、広島市、上越市と一緒に視察し、センスのよさと市民の環境意識啓発の事例に神戸市も見ていただきました。行政規模では比較になりませんが、建設費や運営費を考えれば、糸魚川でも見劣りしないデザインや見学活用を実現できると思っております。大変に期待をしているわけです。

しかしながら、見学活用について、その後、説明がないのはどうしてですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

説明につきましては、議会・委員会等への説明がおくれておりますこと、大変申しわけございません。現在、事業者側から提案を受けたものを委員会で説明する予定となっておりますので、ご了承ください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

見学活用への職員体制と対応を伺います。

1階には受付、事務室、プレゼンの機器を備えた会議室、3階にはプラント内を見渡すガラス張りの見学室と、ハードが整備されていきますが、問題は専門知識を持って市民の環境意識啓発に取り組んでくれる人の配置です。これについてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

議員おっしゃいますとおり、主な学習施設につきましては、3階ということになっております。

学校、小学校等が訪れていただけますのが、小学校4年生の授業になりますので、そういった授業の際には、市の職員が随行することで、3階から1階への誘導ですとか、場合によっては数が多い場合は1階の会議室なども有効活用しながら説明させていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

こども課長は、施設完成後の見学活用、担当課から聞いていますか、今初めて聞きましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

このたびの新築に合わせまして、見学ができる施設であるというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

施設を使った環境フェアについて、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

環境フェアにつきましては、科学とサイエンスというような教育活動とともに行っておりますので、清掃センターで全て行えないのかもしれないと。今調整に入っておりますが、次年度の開催につきましては、清掃センターの3階の学習施設のほうをフル活動いたしまして、それ以外のスペースでは、収集運搬にかかわる事業者ですとか、リサイクルにかかわる事業者ですとか、そういったものの展示を進める予定にしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

生涯学習課長は、施設完成後の見学活用、担当課から聞いていますか、今初めて聞きましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えします。

直接はお話は聞いておりませんが、教育委員会の中でこども課、こども教育課は隣でありますの

で、そういう話は伺っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、海洋プラスチック処理と環境問題解決への貢献について、いま一度、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

海洋プラスチック問題ですとかそういったものは、当市だけではなく世界的な問題になっておりますが、今回の清掃センターの変更によりまして、これまで埋め立てに回っていた硬質のプラスチック、固めのプラスチックも焼却に回すことができるようになります。従来は、埋め立てごみとして処理をしていましたが、そちらのほうが燃やせるごみに出せるということから、一定の貢献ができるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

当初、企画・構想がされたときから、また時代が少し変わりましたよね。そういった中で新しい施設をSDGs、皆さんご存じだと思いますが、の課題解決に役立てることを考えるべきではないかと。そういった中で、SDGsの目標17項目のうち、今度つくる糸魚川市の施設で対応できる、できそうなものは何だとお考えでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

海洋プラスチックのお話を聞く中で、市内の飲食店等にも確認してみました。中では、プラスチック製のストローをもう既にやめておられるというところもあるものですが、そういったところのまた情報を流したいというふうに思っております。SDGsに関しましては、そういった使うほうの立場、SDGsの目標でいいますと、12番目の目標のつくる責任、使う責任ということになるかと思えます。一般的な飲食店等でそういったものが出ているということになれば、そういったものを少しでも減らしていただくという貢献ができるんじゃないかというふうに思いますし、それ以降は、14番、15番では海の豊かさですとか陸の豊かさという項目がありますので、そういったものに貢献できるというふうに考えておまして、さらに気候変動に直接影響いたしますので、そういったものにも貢献ができるのではないかとというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

この質問の最後になりますけども、新しい施設を環境問題解決にもフル活用することが高額な運営費を市民にお願いする理由の1つになるし、そうしてほしいと私は思います。SDGsのバッジをつけている米田市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

SDGsの、これはやはり17項目全て、行政も今我々、進めておる中では完結できる方向性と同じだと捉えておるわけでありまして、だからといってつけてるわけではございません。これはジオパークネットワークがSDGsを取り組んでおるわけでございますので、それにつけさせていただいたとるわけでありまして。

しかし、我々はやはりそういったことで、SDGsにかかわらず、その辺を目的を明確にしながらか、そして、その効果を理解いただけるような方向で取り組んでいきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、大糸線活用の2回目の質問です。

6月一般質問でも大糸線の活用を伺いましたが、今回は糸魚川市の資料、大糸線活性化協議会の取り組み方針についてをチェックリストにして掘り下げて再質問します。

まずは、大糸線廃線へのJRの動きについて、担当の建設課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

市長答弁にもございましたとおり、JR西日本は、大糸線の活性化協議会の一員、メンバーとして積極的に利用促進事業に取り組んでいただいております。具体的な活性化のメニューについての提案もいただいておりますし、JRのそれらの感じとしましては、会社として本気で取り組んでおるといような、その意気込みのようなものも、私どもは感じておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

J R 西、J R 東との協力連携で、大糸線の活用、広告宣伝力の活用が方針に示されていますが、具体化したものがあればご説明をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

車両の活用といたしましては、この10月に小学生を対象にした車掌体験といったような、できるような企画列車というものを今計画しております。

また、11月になりますが、これはバル街と連携した企画列車というものを計画しております。広告宣伝力といった活用の部分でございますが、ことしの3月、J R 西日本の金沢駅の構内におきまして、コンコースの部分、通路の部分を確認いただきまして、沿線市村の観光PRイベントというものを市長も行く中で実施しております。

また、10月から始まりますデスティネーションキャンペーンのパンフレット、あと西日本の新幹線の網棚のところに入っております西ナビの今度の10月号におきまして、市内の観光情報というものを掲載していただくというような具体的な動きが出ております。

以上です。

補足でございますが、金沢のイベントのことに关しましては、前の日、テレビ報道のほうでも報じられたところがございますし、その辺もJ Rのほうの発信力といいますか、その辺はありがたく私どもは感じておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

頑張っていたらということ、その点、感謝申し上げます。

ただ、観光の宣伝全般に言えることなんですけど、その効果は、誰がどのように検証し、また協議会や議会や市民に報告されていくのか、この点、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私ども、この協議会というものをちゃんと組織として事業を計画して、運営・実行しておりますので、それぞれ毎年、その振り返り効果というものを検証して、次の活用、いわゆるPDCAサイ

クルを回しながら、それらの当然、市民の皆様、沿線の皆様に対しての発信を含めた効果の検証というものを進めていくということは、この事業計画の中にも示されたことでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

取り組み方針についての資料を疑うわけではないんですけども、県、市、村の協力連携で何をやるようとしているのか、体制をつくりました、予算おりました、会議はやりました。でも大糸線利用者はふえませんでしたとなった場合に、JRの経営を考えたら早期の廃線もやむを得ないですねという結論を出すための協議会になるんじゃないかと心配をしていますが、その点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

大糸線活性化協議会というものは、事業者も含めた関係者、沿線関係者、新潟県、長野県を含めた関係者が一丸となって、この利用促進に取り組もうということで設立いたしました協議会でございます。県を含む沿線自治体が相互に連携いたしまして、今ある観光資源ですとか、まだ知られていない、開発されていないような、発掘されていないような観光資源、それらの発信というものを連携してやることによりまして、交流人口の拡大を目指すということ。

もう一点は、やはり公共交通ですので、そういうことをやることによって、生活の足という部分の確保にもつながるといった目標というものも掲げております。それら交流観光ですとか、生活の確保ということを進捗を通じて、最終的には、その地域の活性化につながるということ、この構成メンバー全員が共有する目標として取り組んでおるものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ご説明いただいたので、協議会の目標というものがわかってまいりました。ただ、この会議には、どんな方が出席し、どんなことが話されているのか、ホームページで会議録を見ました。

2月7日の総会は、5つの議案を質疑・応答なく了承し、45分で終了。5月31日の総会では、4つの議案を質疑・応答なく了承し、35分で終了。これでは何が話されたのか、議案審査のプロセスや、この協議会が何を目指して話し合いがあるのかわからないです。この点を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、協議会の会議には、どんな方が、どういう出席をとということでございますが、大きく分けまして担当レベルの会議、あと課長レベルで幹事会というものを重ねておりまして、それで今度は、それぞれの自治体の長の総会というもの、そういう三層構造でやっております。担当者会議というもので具体的な利用促進策についていろいろ議論を交わしております、あと当然、総会前に開催する幹事会の議案の調整、それらの事務的なこともやっております。

また、幹事会では、今ほど申しました課長レベルによりまして、総会のほうへ提案する事業計画の議案についての協議・確認というものを行いまして、その後の総会によりまして、各団体の長によりまして、その議案について承認をいただくというようなつくり立てにしております。

その次に、ホームページの発信のことに關しまして、今ほど流れというものをお示しましたが、総会にかけの段階では、担当者レベルの会議、幹事会ということで、各段階を踏んできております。それですので、その段階で、それぞれの団体が各長に持ち帰りまして、レクチャーをさせていただいております。

総会のほうにつきましては、その辺の事前の会議ですとか事前の説明というものを経た上で総会というものが開催されておりますので、こういう形になっておるんですが、ただ、会議録をそのまま確かに読んでみますと、さっささと終わってしまうような実情でございますので、現状では、少し事務局のほうでこれこれを説明したという部分がなかなか、薄い部分がございます。それらにつきましては、掲載の方法について少し見直しというものを行うことにしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ぜひそうしてください。そうでないとなかなか協議会のことを理解したり、支援していくというふうな気持ちにもならないもんですからね。よろしくお願ひしたいと思います。

さて、6月の一般質問で、私は、もしも大糸線がなくなったらどうなるかということですね。観光入込客が減るといふ仮説のもとに、このエリアの観光戦略を立てたらどうなるかと私は問いました。担当課長は、大糸線は当地域の必要な観光資源、今後、多くのインバウンドが訪問したり、今ある資産が見直される時代が来ることが予想されるので、大糸線活性化協議会等とも連携して、大糸線の活用を考えていくと答弁しました。

私からは、入込客の目標値やその根拠について、みんなで話し合っていないんじゃないか。だから、いつまでたってもイメージのような話ばかりで戦略ではないと生意気にも申し上げたんですが、これ、早急に協議会で仮説と戦略をつくって協議し、議会にも示していただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

観光サイドの観点でお話し申し上げます。

議員がおっしゃいますとおり、具体的な入込客の目標値をしっかりとした根拠のもとに設定することは、重要であると考えておりまして、この大糸線のみならず、市全体の誘客を進めるための話し合いは、さまざまな機会を通じまして各種団体と進めているところでございます。

当市の観光戦略につきましては、糸魚川市観光協会とともにDMO事業の一環として観光戦略プランを策定することにいたしておりまして、今その準備を進めているところでございます。

また、小谷村、白馬村、大町市のエリアで白馬バレーでございますが、広域連携DMOが立ち上がっておりますので、この組織とも情報交換する中で、この戦略について話を進めていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

戦略を策定して進めてるという答弁ならいいんですけど、戦略の準備を進めていると言いましたかね。戦略の策定の準備を進めていると。ゆっくりしてますよね。インバウンド対応に早く取り組んだところは、試行錯誤し、実績を上げ、もう次の手を考えていますよ。糸魚川はどうですか。これからですか、時間がかかるんです。もう手おくれかもしれないが、やっていくしかない。まず何をするか。

ポイントは、先ほども申し上げましたが、大糸線をすぐに廃線にさせないことです。廃線の理由となる通勤・通学の利用が少ないのはわかり切ったことで、そこだけを論点にしてはいけません。大糸線には歴史があります。地域住民だけの鉄道でなく、スキーブームのときは維持費がかかる冬季に稼ぎ、長野オリンピックのときは工事と視察で稼ぎ、これからはインバウンドです。でも今後、多くのインバウンドが訪問することは、今のままではあり得ません。なぜかわかりますか。世界の中での糸魚川という都市の存在感が大きな課題としてあります。

6月の私の一般質問に、鉄道会社との連携や観光キャンペーンでの我々の存在感を出していくと、米田市長よりご答弁いただきましたが、そもそも糸魚川のことを知っている海外の方は、どのくらいいますか。海外のエージェントは、白馬は知っていますが、大糸線が糸魚川と白馬をつないでることを知っていますか。そこを検証して、手を打たなければ糸魚川にも来ないし、大糸線に乗るはずがない。これが私の仮説です。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

具体的な検証はしておりませんが、海外のエージェントとのお話の中では、周辺には立山黒部アルペンルートですとか、また白馬バレーなど有名な観光地がありますことから、その結節点である糸魚川や糸魚川駅からの移動手段の1つであります大糸線につきましては、一定程度認識されてるものと推測いたしております。

また、鉄道につきましては、他の線区とつながり、ネットワークを形成することによって利用価値が高まるというふうに考えておりますので、引き続き大糸線の魅力ですとか、また必要性、またジオ鉄などの魅力を通じて情報発信をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今の答弁は、以前にもいただいたような気がします。私が言ってるのは、戦略を策定して、それをどう進めていくか、もうその段階じゃないですかということなので、いつまでも同じ答弁の繰り返しというのはやっぱり困るんですよね。そういったことで、きょうはもう一步踏み込んだご答弁をいただきたいと思って質問を続けたいと思います。

インバウンドが移動するコースを示すのはエージェントですから、国内と海外のエージェントに商談会等を通じて大糸線を使うコースを売り込む必要があります。費用もかかりますが、これをやらなければ大糸線にインバウンドは乗りません。ですからこういう具体策を立てて、大糸線沿線の観光協会や観光部局と戦略をつくり、予算をつけ、実行してほしいんです、今すぐにでも、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

先月、台湾で新潟県主催の商談会が行われておりまして、糸魚川市としても初めて単独で参加したところがございます。その中では、当市の観光素材ですとかモデルコースを提案してきたところがございます。

また、広域的な連携といたしましては、今年度、北アルプス日本海広域観光連携会議におきまして、輪行バッグの無料レンタル事業を実施いたしまして、サイクルツーリズムを通じて大糸線に乗り組む取り組みを進めているところがございます。今現在、大糸線を使った旅行商品というものはないのですが、今後、今ほどの連携会議等の自治体や団体が一体となって旅行商品の開発ですとかそういうものにつなげていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

先ほどですか、大嶋課長が鉄道が全体でつながっていることが大切というお話もされましたよね。私、本当そのとおりだと思います。

それで、大糸線が鉄道の大きなネットワークの中で運営されているメリットというものをもう一回検証してみたいと思うんですよね。大切なことは、全国の鉄道路線図に糸魚川から松本までの路線があることで、確実に全国に行けるという安心感を抱く私たちの国民性に訴えることです。そこに大糸線と糸魚川の存在感を出すことも必要ではないでしょうか。

それとインバウンドのことをお話しすれば、東京方面の空港、それから関西と富山に来ますよね。そこからどうやって糸魚川に入ってくるかというルートなんです。ここの糸魚川と白馬のとこだけ考えててもだめですよ。どこから来て、どう回り込んでくるか。もしこの糸魚川と白馬の間の大糸線がなくなれば、もう長野から入ってくると。ますますここのところが細る。となれば、新幹線の停車数も減るじゃないですか。大きな影響があると思うんですよ。そういった中で、この大糸線の活性化の戦略を考えてほしいということなんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員のおっしゃるとおり、特に関西方面から白馬方面へ向かうに当たりましては、大糸線が重要な路線となってまいります。北陸新幹線の敦賀方面への延伸に伴いまして、そのニーズも伴ってくるというふうに思っておりますし、昨日も金沢の旅行会社の方がお見えになって、富山空港から入ってくるお客さんの流れとか、そういうものについても議論をさせていただいております。今後とも大糸線の路線のみならず、周辺の交通等も活用した中での利用促進につなげていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

その必要性は、ここにいる皆さん全員が考えていると思うんですよ。それで、きょう申し上げたいことは、民間経営の地方鉄道では、観光活用して利用者をふやしている事例があります。そして、そういったところには、リアルな戦略があります。糸魚川には、それが不足していた。今後は、その戦略を盗んででも大糸線活性化の戦略を立てて実行することに全力を挙げるべきと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

大糸線の活性化協議会で事業を展開していくに当たりましては、これは効果的で、それを段階的にやっていくと、そういう進め方をしようということを協議会設立時に確認しておくことでございます。協議会を2月に立ち上げて以降、今はもう各種事業のトライアルとか実施の段階に入ってきておるというふうに私どもは捉えております。それぞれの自治体におきましても、それにかかわる人数というのは、ある程度限られるんですが、それはお互いのノウハウというものを共有して、それを補いまして、後は、もとは鉄道でつながるとということは、逆にもっと広い範囲を見なきゃいけないということですから、それらのよい事例というものも参考にして、とにかく前向きに取り組んでいきたいというふうに私どもは考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

頑張って進めていただきたいと思います。

きょうは、大糸線の活用と糸魚川への誘客についての提言を3つしたいと思います。

まずは、地元の人材活用です。糸魚川には、さまざまなジャンルで知識や経験を持つ方がおられます。例えば日本海クラシックカーレビューです。ことしで28回目、年々、来場者数がふえ続けるのは、実行委員会の皆様が毎回毎回真剣に企画を練り、お客様へのおもてなしに努めてきたおかげだと思います。

さて、7月7日に新幹線駅ジオパルで、鉄道ファンのイベントがありましたが、担当課もご存じですよね。これまでにない来場者があったと聞きましたが、鉄道愛好家や鉄道に興味を持つ子供たちを招くため、アイデアを練り、おもてなしをした方たちがいたおかげだと思います。この延長上に来訪者をふやし、ひいては大糸線の利用者をふやす戦略があると考えますが、この点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

去る7月7日の鉄道ジオラマのイベントにつきましては、ジオパルのスタッフですとか鉄道ファンのつながりから、全国からさまざまな団体からご参加いただき、入り込み数3,000人となるイベントまで成長してまいっております。

議員がおっしゃるように、本市には、この鉄道だけじゃなくてさまざまなジャンルにおいて専門的な知識ですとか経験をお持ちの方がいらっしゃいますので、今後ともこれら各種イベントの計画に当たりましては、このような人材の意欲ですとかアイデアを可能な限り取り入れまして、進めていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

通告書の（3）鉄道ジオラマ車両展示スペース拡張と観光活用、鉄道グッズ販売は、ジオパルのスタッフさんと観光協会からいただいた糸魚川への誘客と鉄道利用をふやすためのお知恵です。ぜひ取り組んでいただきたいと思います。この点、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

鉄道のジオラマコーナーにつきましては、展示品がふえてきていることに伴いまして、手狭にな

ってきてるのが事実でございます。現在、そのスペースの活用方法について検討する必要があるということで、協議を進めているところでございます。

また、鉄道グッズの販売につきましては、その内容について観光協会と検討しており、その内容が固まり次第、JR側と販売についての協議を行うことといたしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

キハ52の車両と、そして展示スペースは、もっと生かせると私は思います。インスタ映えするようにさまざまな工夫を施し、格好いいユニフォームを貸し出し、コスプレして写メールをしてみるとか、鉄道ファンが喜びそうなあらゆることを考えて試してみるんです。糸魚川のジオパルで楽しい鉄道カフェが定期的であれば、人は来ますし、経済効果があります。

提言の2つ目は、専門家の知恵の活用です。行政もJRも観光に明るいことは否定しませんが、大糸線の起死回生には鉄道観光の専門家のフレッシュな知恵は不可欠です。リゾート列車雪月花デザイナー、川西康之先生のたくさんの知恵と経験から知恵をいただくべきです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

旧トワイライトエクスプレスの調度品を活用した展示施設というものを今、糸魚川市のほうで計画しておりまして、これらの本当に構想の段階から、川西さんのほうにはかかわっていただいております。これは川西さんとは、今、今度トワイライトエクスプレスの調度品の工事の実際の監理業務という部分、非常に細部にこだわりの持っておられる設計者でございますので、監理業務というものもお願いする中で、この中で引き続き、おつき合いをさせていただきますので、そのおつき合いの中で今度いろんなお話をさせていただく中で、この大糸線みたいのも川西さんは非常にフランクに率直にしゃべっていただける設計者ですので、その辺についても会話みたいのもするところから始めてみたいというふうに私どもは考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ぜひよろしく願いいたします。

そして、えちごトキめき鉄道の新しい社長に今回なられた鳥塚 亮さん、大糸線存続に背水の陣で臨む今、絶好のタイミングで近くに来ていただいたと私は考えています。鳥塚さんは、キハ52等、ディーゼル車を使った誘客で千葉のいすみ鉄道を再生した方で、以前、糸魚川で講演をされたことがありました。このことをチャンス到来と考え、大糸線活性化協議会に入らせていただくべ

きと考えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

先日、鳥塚さんの社長の就任会見というものがあまして、えちごトキめき鉄道を全国に知ってもらえるようなことが大きな仕事だと考えておると。鉄道が全国区になれば沿線地域の特産品も売れるようになります。そういう部分にも力を入れたいというような発言をされております。

田原議員おっしゃるように、いすみ鉄道の活性化というものを非常に進められてまいりまして、いすみ鉄道というものを全国区に押し上げたという実績がございます。大糸線とえちごトキめき鉄道の連携というのは、大糸線の活性化にも大変必要なことですので、ただ、まだ今、社長に就任されたばかりでもございますので、それらの連携の中で機会を捉えて、また相談できるところは相談していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ご本人のご意向もあると思います。しかし、幸運の女神に後ろ髪はないと、ことわざにあります。ぜひこちらからお願いして、鳥塚社長さんのお力をいただいて、大糸線を支えていただきたいと思います。

提言の3つ目は、鉄道マニアや旅行愛好家、模型愛好家の方から鉄道とかかわる楽しみをおすそ分けしていただく、そんな仕組みをつくっていけないかということです。私が思いつくのは、市内の小中学生のジオパル、ジオラマ、キハ52、そしてリゾート列車雪月花のホームでの見学のツアーです。これに関しては、教育長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

教育委員会への提言として受けとめさせていただきました。私自身もキハ52の出庫と入庫に携わらせていただいております、ジオパルですとか駅周辺に行くことは、結構ございます。そういった中でやはり感じるのは、子供たちが非常に多く来ているなということです。

また、子供たちに限らず、大人の中にもやはり鉄道が好きな人が非常に多いということで、その部分も含めて今、田原議員からご提言いただいたことについては、教育委員会としても担当課も含めて検討させていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よいご答弁をいただきました。

加えて、提言になろうかと思えますけども、鉄道イベントに参加してくれました、7月7日のイベントに参加してくれて活躍してくれた東京の聖学院中学校の生徒さんと、それから市内中学校の生徒さんが一緒に楽しく大糸線に乗るツアーを子供たち自身で企画して乗るとか、また、今ほど教育長のお話もございましたが、鉄道好きな市民が車中でガイドして沿線都市や集落をめぐって学ぶ大人向けのツアー、こういったことを担当課と、それから教育委員会、これは生涯学習になるんでしょうかね、一緒に検討して実施していくことが大糸線利用につながるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

観光として多くの人から糸魚川に来ていただくということも大事ですが、生活の足も大事です。ただ、糸魚川の市民の皆様が大糸線というものをもっと知っていただくということが、私は大事なんだと思います。その中で、今議員のほうでご提言をいただきました糸魚川の人たちに大糸線を知ってもらおうような、鉄道を知ってもらおうような取り組みというものは、この協議会の中で、当然、沿線市村とも連携しながら進めていかなければいけない、私は課題だというふうに捉えております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

大糸線の活用には、多くの知恵が必要です。地域住民の愛着が必要です。時間もかかります。その知恵と愛着を取り入れて、大糸線を活用する人をふやすには、小谷、白馬、大町の住民とも連携できるオープンな協議会の運営とする必要があるのではないのでしょうか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおりでございます。沿線地域の皆様ですとか、沿線地域にかかわらず鉄道ファンの皆様から、大糸線に目を向けていただくというためには、この大糸線利用促進の取り組みについて数多くのアドバイスですとかヒント、そういうものを私どもにアドバイスしやすくするとい

うような、そういう協議会としての取り組みというのは当然必要であるというふうに考えてまして、私どももそういうふうに進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしくをお願いします。

あえて繰り返しますが、大糸線活性化協議会は、大糸線廃線への軟着陸を模索する会議体ではなく、未来を見据え、リアルな戦略を実行するために運営されることを望みます。

最後、市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

大糸線の重要性は、改めて言うまでもなく糸魚川市にとっては大切な公共交通機関であります。それにつきましては、今ほど各課長が述べたとおりであります。そういう中において、北陸新幹線が開業したわけございまして、北陸新幹線をやはり存続するため、存続といいましょるか糸魚川駅を存続するため、そして停車本数をやはり堅持していくためには、この乗降客が確保しなくちゃいけない。その上においても大糸線というのは、私は非常に重要な施設であるわけございまして、これからもしっかり努めていかななくてはいけないと思っておりますが、しかし、市民の中においてもやっぱりそういった機運が高まっていかななくてはいけないと思っております。まずは、マイルール意識を高めていくことを我々はやらなくてはいけないと思っております。そういう中で観光に使用して、よそからおいでいただく方々からもたくさん喜んでいただけるような形をつくっていきたいと思っておる次第であります。そういう中においては、議員いろいろご提言いただきましたし、また、市のほうといたしましてもいろいろ、今、思慮してる部分がございますので、その辺を合わせながらしっかりとしたものにつくり上げていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

大糸線を愛する気持ちは誰にも負けないという米田市長だと思います。ぜひよろしく願いいたします。

では、質問の3でございます。復興再生事業について2回目の質問をさせていただきます。

駅北広場、防災公園、市民公園の建設の経緯と活用の詳細について、いま一度担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

おはようございます。

駅北広場防災公園、市民公園の建設経緯につきましては、あそこで敷地の再編等を行う中で、あの被災地の中から再建に向けては転出されて、そちらに土地は要らないのではという方、そういった方の土地を市のほうで積極的に譲り受けさせていただきました。その土地の中から拡張した市道の用地や、それから再建したいんだけど敷地が狭い方の宅地へのつけたしといったことに利用させていただいた。なおかつ、その残余の土地が、基本的には市民公園等の敷地になっております。そういったところをどのように今回の復興の中でそういった土地を活用していくかといったところで、防災ということで火災を防ぐ意味合いと、それから災害での一時的避難場所、そういったような防災の意味合いのある広場にしていこうといったところから今回、整備を進めてきております。

駅北広場につきましては、それからの地域の交流やまちづくりへのチャレンジの場としてという位置づけがございますが、その他の市民公園、防災広場として整備したものとしましては、そういった防災の意味合い、一避難所というような意味合いと、プラス通常に市民の方から憩いの場としてご活用いただく、それから糸魚川を、糸魚川の町の中を回遊していただく、そういったものの施設の1つとして活用していただきたいということで設計しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民に対して十分な説明と市民理解があって、広場や公園はでき上がったのでしょうか。伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

今回の広場整備等につきましては、まずは被災者関係説明会等の中で、こういった広場を整備したいというような内容について、ご提案させていただいております。

それから、それぞれの広場の周辺に、今回ブロック意見交換会やった、そういったブロックごとぐらいになりますが、周辺の皆様にその広場の内容等についての説明もさせていただいているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

イラストと写真でこんなイメージです、ワクワク感がありますと、一方的な具体性のない説明だけで工事が始まり、どんなものかがわかったのは、完成後だという市民の声があります。これどうしますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

広場の設計内容等につきましては、今ほどもお話しさせていただきましたが、ブロック単位ぐらい、その中で関係する周辺の皆様には、内容についての説明をさせていただき、特に近隣の方については、近隣との境界等どうしましょうかというあたりも丁寧に説明し、協議をしてきたつもりではございます。

ただ、全般的なところと申しますか広くという部分になると、その辺は被災者関係者説明会で示した図面レベルでしかできてないといった部分はあろうかと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

大町潮風市民公園の利用目的、広さ、工事費、仕上げ等、樹木等、環境への配慮について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

大町潮風市民公園でございますが、利用の目的としましては、齊藤課長の答弁にもございましたが、万が一、火災が発生したときに少しでも延焼の拡大を抑えるような空地としての役割、あと災害時の一時避難場所としての役割、また、ふだん通常時には、市民の皆様の憩いの場としての役割、それぞれの利用目的というものがございます。

広さ、工事費に関しましては、面積で773平方メートル、工事費で約3,970万。仕上げでございますが、床面はコンクリートの洗い出し舗装というふうになっておりまして、その中の骨材というものは、黒姫山の石灰石を使ってございます。樹木に関しましては、耐寒性とか、あと潮風ですとか、今回の大火を受けての広場でございますので、耐火性のある樹木というもので常緑樹というものを選定いたしまして、あと周辺環境等の調和ということで大和堀というものも整備いたしておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ここは海が見えない、車がうるさい、暑い、何のための公園かという市民の声がありますが、どうしますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

先ほどもお答えした内容と関連いたしますが、譲り受けた土地の中から残余の土地を配置させていただいているものであります。ですから、公園の配置そのものについては、全体的にいろんな計画等を持った中で配置できているものではありません。ですから、広場のほうから海が見えないとかそういったものはあろうかと思えます。

ただ、こちらにつきましては、糸魚川市の水道の発祥にもつながるといった井戸があって、申しわけございません、潮風広場です、申しわけございません。海が見えないそのものについては、国道がある、それから、自動車を通ると、そういった条件の中、それをどうにかできる中でという内容では、なかなか最初の配置の部分の中からは、我々としてもなかなかそういった考えといいますか整備の内容については、できなかったということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

つくってしまったからしょうがないねと、こういうことでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

そのような考えで事業を進めているわけではございません。与えられた条件の中で最大限どのようにすればいいか、そういったところから今回の公園整備、広場整備を行っているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、大町仲町市民公園の利用目的、広さ、工事費、仕上げと、樹木等環境への配慮について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

利用目的といたしましては、先ほどの潮風公園のほうと同じ部分と、あとここには備蓄倉庫ですとかマンホールトイレ、あとそれらに水を供給するための井戸というものがございますので、比較的ほかの公園よりは、防災という部分の色合いというのが強いのかなというふうに思っております。

強いというふうに設定いたしております。

面積といたしましては約400平米、工事費で1,750万円、仕上げは先ほどと同様にコンクリートの洗い出し舗装でございます、樹木につきましても耐寒性、潮風、耐火性のあるものと中低木を採用しております。あと備蓄倉庫というものがございまして、ここは面積として、建築面積で約71平米でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

備蓄倉庫に触れていただきました。この倉庫の、立派な倉庫なんですけど、内外装仕上げ材と、それから床材と建設工事費、できれば坪当たりの建設費について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

面積につきましては、今ほど申しました約71平米で、内装の仕上げは、天井・内壁ともラワン合材オイルフィニッシュ仕上げというものでございます。外装の仕上げ材は、屋根がガルバリウム鋼板横葺き、外壁は波板のスレートでございます。床材につきましては、コンクリートの金ゴテ仕上げとなっております、これらの建築の工事費といたしましては2,565万円をかけております。坪に割り返しますと

約

119万4,000円、単純計算でございますが、その程度でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

これはどんなものが収蔵・備蓄されていますか。いつ何に使われますか。その総額は幾らですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

おはようございます。

お答えいたします。

駅北の防災倉庫には、かけ布団、それから毛布、石けんなどの生活維持活動品、それから油圧ジ

ヤッキ、簡易レスキューセット、救急セットなどの救助資機材、マスク、懐中電灯などの個人装備品、それから保存飲料水、そして、そばにありますマンホールトイレのテントなど、全部で40品目を収納しております。

使うのはいつかということですが、災害時、避難所運営、必ずしもここで使うだけではなくて、避難所にここから持ってって使う。それから、ここで被災した場合に、人命救助の救護資機材がございますので、それを活用して人命救助活動に使うというものでございます。

それから総額ですが、新築に伴って購入したということではなくて、消防防災センター、これは消防本部のことなんですけども、そちらから持ってきまして、備蓄品については持ってきましたし、マンホールトイレのものについては、新たに整備したわけなんですけども、総額で438万6,000円であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。私の感想ですが、備蓄倉庫を何でそんな高価な、高額な建物とする必要があったのかということですね。各地区の消防団の拠点化格納庫のような建物でもよかったんじゃないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

駅北まちづくりの全体計画の中で、広場整備とともに計画されたものであります。確かに各地域に消防格納庫がございますが、そちらには消防団が使う資機材等、それから水防資機材がございますので、保管だけ考えますとそういった施設でも問題はないと思います。

終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

広場整備の中で、特にあちらのエリアにつきましては、景観不燃化のガイドライン等もございません。そういったものに沿った外観等にしなければならない部分もあり、そういったところへも配慮して、今回、外装等についても決定しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

消防団の拠点化格納庫は、一般的な大きさを2階建てで33坪、約2,000万円、坪当たりだと70万円ですよ。片や、坪当たり120万円ですよ。駅北大火後の行政対応を象徴する建物とはいえ、バブリーな建物ですよ。防災公園や市民公園を考える上でも、この建物においてもどこかで浮かれた気持ちになっていたんじゃないですか。どこかを見て、被災者の気持ちを忘れていたんじゃないかと私は思います。

次に、リノベーションスクールによるにぎわいづくりの詳細について、担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

リノベーションスクールといいますと、現在いろんな地方都市、かなり大きな都市においても町の中心部の空洞化、スポンジ化というのが課題となっております。そういったものを解決する1つの方策として、空き家・空き店舗等の活用というものを図っていく中での1つの仕組みというところがございます。リノベーションスクールにおいては、おおむね大体6人から8人程度が1つのユニットとなって、課題とされた空き家、そういったものを自分が、自分たちの中での起業やチャレンジ、そういった夢をかなえるチャレンジといったものの実現に向けて、その物件をどのように使えばいいかというのを2泊3日ほどの時間をかけて、ぎっちり事業計画まで作りながら、そういう提案をつくったものをオーナーさんにプレゼンテーションし、そのプレゼンテーションでオーナーさんとの意見がマッチすれば、その物件の実際の改修・活用につなげていくといったことを1つの大きな流れとして行うものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

スクールの講師は誰ですか。復興にぎわい創出広場、今は看板をかえ、にぎわいをとって、ただの駅北広場になったんですかね。この広場、建物の設計者とは、どのような関係になっていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

リノベーションスクールの委託先は、株式会社リノベリングになります。そこからスクールマスターとして派遣されている方が、西村 浩さんという方になります。駅北広場、建物の設計自体は、株式会社ワークビジョンズであり、その代表者である西村さんということになっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

同じ方が2つのことをやっていて、そこに行政から外注していると、こういうことですよ。それで、大火被災地のど真ん中の建物と、大火で燃えなかった周辺の空き家、これがどのように結びついて復興のまちづくりとなって展開されるのか。果たして、まちはにぎわうのかを説明してください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

まちなにぎわいづくりに欠かせないものとして、主体的に自分事として活動する人材、こういったものがやはり重要であろうというふうに考えております。その中で、そういった考えの中で、人材をやはりそういったことに、まちづくりにかかわっていただける人材を発掘したり、また育てて、一緒に育っていく、そういったところでリノベーションスクールと。人材育成、発掘の場として1つ、それを目的にリノベーションスクールは進めております。

広場の建物につきましては、キッチンなどを使ってチャレンジしていく、まちづくりにチャレンジしていく場所という意味合いで整備を進めております。まちづくりにかかわる人材が出てくる、チャレンジする人材がふえてくる、そういったこと、それらが小さな活動でもいいので、始まることで周辺の空き家等で展開する。そういったことが、その後のにぎわいにつながっていくというふうなことを考えて進めているものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

この取り組みで被災者住民の皆さんは、何を得られるのでしょうか。暮らしやすさですか、商売につながるにぎわいですか、全くわからないですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

やはり今回、一連のこういったにぎわいづくりということで進めている事業というのは、やはりどのように町の皆さんと活用していくかといったところが重要というふうにも考えております。今回の広場、広場といいますか駅北広場、それから進めているリノベーションまちづくり、リノベーションスクール、それとあと先ほどの市民公園、そういったところを、やはりまちづくりにかかわる人たちもいろいろとまちづくりに力を出していただければと思いますし、やはりそこに住んでいらっしゃる皆さんがどのようにあいったものを活用し暮らしていけるか、そういったところ、それも含めて今地域のほう、いろんな方々に参加していただけるような、そういった広場の活用とか、そういったものを今後進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

被災者住民の皆さんは、何を得られるかという質問なんですけどね。コンサルタントと行政のためのリノベーションスクールなんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

リノベーションスクールは、この2月に第1回を行っております。そういった中で、それまでのいろんなまちづくり、復興のまちづくりでのにぎわいづくりといった中で、いろんなことで会議に出させていただいたり、活動をどうですかというようなことで行政側のほうといろいろつながっていた方々、それぞれに活動で頑張りを始めているというふうに思っております。決して、コンサルタントや行政のためにやっているものではなく、そういったところから個々の活動にもつながってきている。これらが少しずつふえていく。そういったところが、また周辺の皆様にもご参画いただく、そういった流れでのにぎわい、それから暮らし、そういったものがつくり上げられていけばというふうに考えているものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

自己実現でまちを盛り上げる市民の思い、若いプレイヤーたちによる未来のまちづくり、それは結構なんですけど、その前に被災してやっと戻ってきて、今の生活に不便を感じながら暮らす高齢者の皆さんのことを、誰か考えてリノベーションスクールをやっていますか。大火の復興でついた予算を市民がよくわからないうちに何でも使って格好つけようとしてませんか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

まだリノベーションスクールそのもの、そういったものの成果については、今後何年か見ながら検証しなきゃいけない部分はあるかと思えます。

ただ、いろんな今回の復興のまちづくりの中で、地域の皆さんにどのように暮らしを楽しくしていただくか、そういったことをリノベーションスクールでやろうというのではなくて、いろんな形で進めていきたい。その中に市民公園や、あと復興市営住宅の中にある交流スペース、そういったものを活用していきながらご参画いただければといったことで、先週あたりもあそこを活用して、コンサートをやっていただいたりとか、今後そういったものの活用についても、また地域の皆さんと進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

また、経過をよく見させていただいて、改めて質問等をさせていただきたいと思います。

最後に、高校生や若者たちが集うにぎわいの拠点というものを整備していきたいと考えるわけですが、これまでの2年半の中で、高校生や若者からどのような声を集めてきましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

にぎわいの拠点についてというそういう直接の呼びかけ、問いかけ等はいたしておりません。特に高校生につきましては、自分たちが何か町の中で活動できること、活躍できることはないかなということを考えていただくような、そういったことの意見交換会とかそういったものを進めております。今後、拠点も含め、町の中をどうしていくかということでは、駅北まちづくり会議、そういった中でいろんな検討をしていきながら、また必要に応じてそれぞれ多くの皆さんからの意見等を伺わんなんというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

若者、高校生の糸魚川市民の未来の声を私たち議会も聞きたいんですよ。今までそういうことを全く聞いてないんですよ。そういったものを議会にも出していただきたい。いつ出していただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

具体的にどのようなものといったところでいくと、今までやっているものについては、例えば高校生と町の中でどんなことができるだろうといったところ、そういったお話ししたりしたものについては、記録もございますので、そういったあたりご提示はできると思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

持ち時間がなくなりました。若いファミリーが住みやすい環境整備、新幹線駅と食材を生かした復興再生、まちのにぎわいの基本です。今後、駅北復興まちづくりの特別委員会でも協議し、市民の声を聞き、また伺います。

終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、松尾徹郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。〔18番 松尾徹郎君登壇〕

○18番（松尾徹郎君）

おはようございます。

新年度予算編成を前に、実施計画を中心に今後の施策について伺います。

本年度は、ごみ処理施設建設を初め、健康づくりセンタープール整備事業など、一般会計の当初予算規模としては合併以来過去最高額の307億円の積極型予算となりました。また、来年度以降においても次期一般廃棄物最終処分場整備事業を初め、道路改良、橋梁修繕事業、中学校等大規模修繕など公共施設の老朽化対策工事が予定されています。これら整備計画を、いかにして効率よく財源を確保しながら市民要望に応えるか、大きな課題だと思います。長期財政見通しでは、今後、予算規模が縮小傾向になり、特に投資的予算も最盛期の3分の1程度になることも予想され、今後の予算編成が気になるところです。

合併15年目を迎え、合併特例法による優遇措置である合併特例債発行期限も令和2年で終わろうとしています。合併時の新市建設計画もこの優良債を活用しながら忠実に実行することができましたが、今後の施設整備における財源確保については、厳しいものがあると思います。特に合併特例債発行も終了し、優良債と言われる過疎債を活用するにしても、各年度の起債に制限があり、また、後年度の返済額も考慮すれば、これまでのように積極的に幾つもの整備事業を行うことは難しい状況にあります。今後、人口減少がどこまで進むのか、また、それを補うための移住・定住対策、あるいは交流人口拡大のため、外国人を初め観光入込客増大策をどのように図るのか、さらには最近、中小企業の事業承継問題も取りざたされていますが、地元企業の発展はもとより、新たな企業誘致や産業振興策をどのように図るのか、さまざまな課題が山積しております。

将来に対して、決して悲観的になり、不安をあおるつもりはありませんが、市税を初め地方交付税も減少傾向にあるだけに、新たな行政需要に応えるためには、廃止する事業は思い切って廃止し、民間でできるものは民間に任せるなど、財源を捻出し、積極的に行政改革を推進しながら今後の行政需要に応じていかなくてはなりません。まさに糸魚川市が転換点を迎えていると言えます。

スマート農業、スマートシティと言われるように本格的なIT、IoT時代が始まろうとしている現在、それらを念頭に置きながら、今後の施策を進める必要があると考えます。

そこで、新年度予算編成を前に、糸魚川市にとって極めて大切な時期と捉え、実施計画を中心に今後の施策について考えを伺います。

(1) 既存企業の発展はもちろんですが、実施計画の概要では、新商品の開発や地域ブランドの創出とあります。観光産業、あるいは農林水産業を初め新たな産業も含め、今後の産業政策全般にわたり、どのような考えか伺います。

(2) 次に、2025年問題、あるいは2040年問題と言われるように、令和の時代はひとり暮らし世帯の高齢者が増加し、高齢者の中でも80歳代以上の高齢者が増加すると言われて